訪問看護師さんから出たニーズ

①動くざぶとん

現状：小児麻痺等で自立歩行（立って歩けない）方が、家の中をいざりで移動していることで、膝に痛みが生じたり、腕の筋力を使うために、高齢になるにつれて移動が困難になっている。

開発ニーズ：ざぶとんの上に座った状態で移動が可能な、電動カートのような移動用具で安全な道具が欲しい。（速度が速いと転倒・転落のリスクがある。）

②お湯の温度を一定に保てる道具

現状：家で清拭をする際に、バケツにお湯を入れて、その中でタオルを絞って使用しているが、すぐにお湯の温度が冷めてしまい、タオルも冷たくなってしまう。

開発ニーズ：自宅で使用するバケツをそのまま乗せて、設定した温度をキープできる電子機器のような道具が欲しい。電磁調理器のようなもので、自宅でよく使っているようなポリバケツを乗せても溶けないような道具（なるべくバケツはそのまま使いたい）が良い。

③自宅の中で使用できる安全でコンパクトな点滴スタンド

現状：点滴や栄養をチューブで入れている方が使用する点滴スタンドがなく、病院で使われている物では大きいため不適である。

開発ニーズ：自宅で、安全に移動を援助できる点滴スタンドが欲しい。転倒しにくい。自宅の中で動きやすい。なるべくコンパクトが良い。段差が乗り越えやすい。軽い等。

④ベッド上などでスムーズに身体を移動させられる畳マット

現状：寝たきりの方はベッド上で身体の位置が左右や上下にずれやすい。介護者はそれを真ん中に戻すのに大変力が必要となる。これに対していくつかスライドシート等の商品が出ている。その中畳が一番スムーズに重い身体を移動させることが可能であった。これまでは畳職人が畳の切れ端を縫い合わせ、無償で提供してくれたが、商品化はしていない。（⇒似たような商品がテクノエイド協会にありました）

開発ニーズ：畳の素材で布団の半分ぐらいの大きさの移動介助用マットが欲しい。

⑤ドライヤーやシャワーを固定できる回転式・可動式のＳ字フック付き突っ張り棒

現状：乳がんなどの後遺症で肩より上に手が挙げられない方や、麻痺などで片手しか使えない方が、自分で洗髪したり髪を乾かすことができない。

開発ニーズ：自分でシャワーやドライヤーを使用できるように、固定して、さらに上下や左右に動かせる突っ張り棒にＳ字フックが付いたような商品が欲しい。

訪問看護師さんから出たニーズ②

⑥車椅子用の落ちない枕

現状：ALS などの難病患者さんは、徐々に自力では手や足が動かせない状態（麻痺）になる。援助にて車椅子に移動し、しばらく座った姿勢を取るが、頚部の固定が十分にできないため、前に傾いたり左右に傾いたりする。特に前に傾く。これまでは、鞭打ち症の人が使用するネックカラーを試したり、枕で固定を試みたが、淵の硬さの問題や、枕のような芯のない物では思うような固定用具にならず、対応できていない。

開発ニーズ：皮膚に優しい素材で、首が前傾しない道具の改札。なるべく、左右も向きやすい。また、装着しやすい。

図 1：ネックカラー

⑦VR を用いた食事介助

現状：嚥下障害（飲み込みづらさ）がある方は、固形の食べ物を食べるとむせるため、お粥⇒やわらかくした食べ物⇒液状の食べ物といったように食事の形態を変更して食べている。しかし、食感がない、見た目から食べ物を想像できないといった状況から食欲低下に繋がっている。病院では栄養士らが工夫して、ペーストにした食事の形状を加工し、魚の形やハンバーグの形を整える、といった対応をしている場合もあるが、自宅で介護者がそれをすることは難しい。

開発ニーズ：ペースト食を食べる際に VR を使用し、嚥下に問題がない人が食べられる写真を見せることで、食欲増進に繋がると考える。高齢者や小児も利用することを考え、軽量でよりシンプルな形で操作も簡単な物があるとよい。

図 2：ペースト食

図 3：ペースト食を加工し形状を整えた食事